

届出

[平成21年度設置]

計画の区分：学部の学科の設置

東洋大学 生命科学部 応用生物科学科/食環境科学科

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 東洋大学
平成22年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 板倉事務部教学課

職名・氏名 課長 深野 弘美

電話番号 0276-82-9110

（夜間） 0276-82-9110

F A X 0276-82-9801

e-mail fukano@toyonet.toyo.ac.jp

（注）1 「計画の区分」は届出時の基本計画書の「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

届出時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には届出時の旧名称を記載いただき、その下欄に

（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部

（□□学部）

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 〇〇学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 〇〇学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科（通信教育課程）」

「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

【 目 次 】

1. 調査対象大学等の概要等		1 ~ 4
2. 授業科目の概要		5 ~ 12
3. 施設・設備の整備状況, 経費		13
4. 既設大学等の状況		14 ~ 16
5. 教員組織の状況		17 ~ 24
6. 留意事項に対する履行状況		25 ~ 26
7. その他全般的事項		27 ~ 30

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学 校 法 人 東 洋 大 学

(2) 大学名

東 洋 大 学

(3) 大学の位置

(〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20)
〒374-0193 群馬県邑楽郡板倉町泉野1-1-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	届 出 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(ツカモト マサノブ) 塚 本 正 進 (平成18年12月)	(ナガシマ タダヨシ) 長 島 忠 美 (平成21年12月) ~~平成21年4月~~	任期満了に伴う選出 平成21年12月7日(22) 辞任による変更 21年4月4日(21)
学 長	(マツオ トモノリ) 松 尾 友 矩 (平成18年9月)	(タケムラ マキオ) 竹 村 牧 男 (平成21年9月11日)	任期満了に伴う選出 平成21年9月11日(22)
学 部 長	(シミズ ノリオ) 清 水 範 夫 (平成18年12月)	(シミズ ノリオ) 清 水 範 夫 (平成21年4月)	任期満了に伴う選出 平成20年11月17日(21)
学科長等 (生命科学 科)	(フジムラ マコト) 藤 村 真 (平成18年12月)	(カネコ リツコ) 金 子 律 子 (平成22年4月) ~~(フジムラ マコト)~~ ~~藤 村 真~~ ~~(平成21年4月)~~	任期満了に伴う選出 平成22年4月1日(22) 任期満了に伴う選出 平成20年12月8日(21)
学科長等 (応用生物科 学科)	(イノウエ アキラ) 井 上 明 (平成21年4月)	(イノウエ アキラ) 井 上 明 (平成22年4月)	任期満了に伴う選出 平成22年4月1日(22)
学科長等 (食環境科 学科)	(オオクマ ヒロカズ) 大 熊 廣 一 (平成21年4月)	(オオクマ ヒロカズ) 大 熊 廣 一 (平成22年4月)	任期満了に伴う選出 平成22年4月1日(22)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 平成19年度に報告済の内容 → (19)
平成22年度に報告する内容 → (22)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて見え消し修正するとともに、上記と同様に「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください。
 ・ 様式は、平成19年度開設の4年制の学科の場合(平成22年度までの4年間)ですが、開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称、定員

調査対象学部等の 名称(学位)	設 置 時 の 計 画				備 考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
生命科学部 応用生物科学科 学士(生命科学)	4 年	100 人	— 年次 人	400 人	
生命科学部 食環境科学科 学士(生命科学)	4 年	100 人	— 年次 人	400 人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

学科	対象年度 区 分	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平均入学定員	備 考
応用生物科学科	A 入学定員	(-) 100 人	(-) 100 人	() 人	() 人	1.24倍	
	志願者数	(-) 848	(-) 1074	()	()		
	受験者数	(-) 798	(-) 1024	()	()		
	合格者数	(-) 375	(-) 333	()	()		
	B 入学者数	(-) 142	(-) 107	()	()		
	入学定員超過率 B/A	(-) 1.42	(-) 1.07	()	()		
食環境科学科	A 入学定員	(-) 100 人	(-) 100 人	() 人	() 人	1.25倍	
	志願者数	(-) 440	(-) 868	()	()		
	受験者数	(-) 410	(-) 837	()	()		
	合格者数	(-) 347	(-) 309	()	()		
	B 入学者数	(-) 122	(-) 129	()	()		
	入学定員超過率 B/A	(-) 1.22	(-) 1.29	()	()		

- (注) ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、()書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。入学定員超過率については、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入し、平均入学定員超過率も同様の方法としてください。
 ・ 「平成22年度」には、平成22年5月1日現在の状況を記入してください。
 ・ 「平成19～21年度」には、確定した数値を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学科	対象年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	備 考
	学 年					
応用生物科学科	1年次	[-] 142	[-] 107	[]	[]	
	2年次	[-] —	[-] 140	[]	[]	
	3年次	[-] —	[-] —	[]	[]	
	4年次	[-] —	[-] —	[]	[]	
	計	[-] 142	[-] 247	[]	[]	
食環境科学科	1年次	[-] 122	[-] 129	[]	[]	
	2年次	[-] —	[-] 117	[]	[]	
	3年次	[-] —	[-] —	[]	[]	
	4年次	[-] —	[-] —	[]	[]	
	計	[-] 122	[-] 246	[]	[]	

- (注) ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 各年度の5月1日現在の状況を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

学科	区分 対象年度	退学者数 (a)	入学者数 (b)	入学者に対する 退学者数の割合 (a/b)
応用生物科学科	平成21年度	計 [2]	(累積)計 [142]	[1.4%]
		うち平成19年度入学者 人	うち平成19年度 人	
		うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
		うち平成21年度入学者 2人	うち平成21年度 142人	
		(主な退学理由) 学生個人の心身に関する事情・・・1名 除籍・・・1名		
	平成22年度	計 [0]	(累積)計 [249]	[0.8%]
		うち平成19年度入学者 人	平成19年度 人	
		うち平成20年度入学者 人	平成20年度 人	
		うち平成21年度入学者 人	平成21年度 142人	
		うち平成22年度入学者 人	平成22年度 107人	
		(主な退学理由)		
	平成23年度	計 []	(累積)計 []	[%]
		うち平成19年度入学者 人	うち平成19年度 人	
		うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
		うち平成21年度入学者 人	うち平成21年度 人	
(主な退学理由) 学生個人の心身に関する事情・・・1名				
平成24年度	計 []	(累積)計 []	[%]	
	うち平成19年度入学者 人	平成19年度 人		
	うち平成20年度入学者 人	平成20年度 人		
	うち平成21年度入学者 人	平成21年度 人		
	うち平成22年度入学者 人	平成22年度 人		
	(主な退学理由)			
食環境科学科	平成21年度	計 [5]	(累積)計 [122]	[4.1%]
		うち平成19年度入学者 人	うち平成19年度 人	
		うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
		うち平成21年度入学者 5人	うち平成21年度 122人	
		(主な退学理由) 家庭の事情・・・2名 他の教育機関への入・転学・・・2名 その他・・・1名		
	平成22年度	計 [0]	(累積)計 [251]	[2.0%]
		うち平成19年度入学者 人	平成19年度 人	
		うち平成20年度入学者 人	平成20年度 人	
		うち平成21年度入学者 人	平成21年度 122人	
		うち平成22年度入学者 人	平成22年度 129人	
		(主な退学理由)		
	平成23年度	計 []	(累積)計 []	[%]
		うち平成19年度入学者 人	うち平成19年度 人	
		うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
		うち平成21年度入学者 人	うち平成21年度 人	
	(主な退学理由) 学生個人の心身に関する事情・・・1名			
	平成24年度	計 []	(累積)計 []	[%]
		うち平成19年度入学者 人	平成19年度 人	
		うち平成20年度入学者 人	平成20年度 人	
うち平成21年度入学者 人		平成21年度 人		
うち平成22年度入学者 人		平成22年度 人		
(主な退学理由)				

(注)・[]内には、留学生の状況について内数で記入してください。

- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、各対象年度における退学者数を開設年度から当該年度までの入学者（累積）で除した割合（%）を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。
 - ・就学意欲の低下
 - ・学力不足
 - ・他の教育機関への入学・転学
 - ・海外留学
 - ・就職
 - ・学生個人の心身に関する事情
 - ・家庭の事情
 - ・除籍
 - ・その他
- ・「平成22年度」については5月1日現在の状況を記入してください。
- ・「平成19～21年度」には、確定した数値を記入してください。

＜生命科学部 应用生物学科＞

科目区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通領域	人文	生命論	1・2・3・4	後	2							教育効果を考慮し、配当学期を前学期のみに変更 (21)	
		生命倫理	1・2・3・4	前	2								
		生命哲学	1・2・3・4	後	2								
		心理学	1・2・3・4	前	2								
		言語と文化	1・2・3・4	前・後	2								
		人文地理学入門	1・2・3・4	後	2								
		文化人類学入門	1・2・3・4	後	2								
		哲学入門	1・2・3・4	前	2								
	社会	食と文化	1・2・3・4	前・後	2								
		社会学入門	1・2・3・4	後	2							履修者増加に伴う対応のため配当学期を前・後期に変更 (22) 教育効果を考慮し、配当学期を前学期のみに変更 (21)	
		政治学入門	1・2・3・4	前	2								
		経済学入門	1・2・3・4	前・後	2								
		法学入門	1・2・3・4	前	2								
		日本国憲法	1・2・3・4	後	2								
	自然情報	現代生物学	1・2・3・4	前	2								少人数教育実施のため専任教員採用 (22) 担当 清水和哉 (助教) 平成22年1月教員審査済 判定 可
		現代化学	1・2・3・4	前	2								
		現代物理	1・2・3・4	前	2								
		科学技術論	1・2・3・4	後	2		1						
		生命科学史	1・2・3・4	後	2								
		情報処理基礎	1・2・3・4	前	2					1			
		情報処理演習	1・2・3・4	後	2		1						
		ライフサイエンス基礎Ⅰ	1・2・3・4	前	1						1		
	総合	ライフサイエンス基礎Ⅱ	1・2・3・4	後	1							1	
		総合Ⅰ	1・2・3・4	前	2								
	総合	総合Ⅱ	1・2・3・4	後	2								
		キャリアデザイン	1・2・3・4	前・後	2			1				教育効果を考慮し、配当学期を前学期に変更 (22)	
外国語科目	外国語科目	生命科学英語Ⅰ	2	後	2		7	3	1			教員の身分昇格のため(22) 担当 道久剛之 (教授) 平成22年1月 教員審査済 判定 可	
		生命科学英語Ⅱ	3	前	2		3	3				少人数教育実施のため教員を追加 (22) 担当 柏田祥策 (教授) 担当 高崎 茂 (教授) 担当 角野立夫 (教授) 担当 三浦 建 (准教授) 担当 根建 拓 (准教授)	
		会話英語Ⅰ	1	前	1		4	4				教員の担当科目変更のため (22)	
		会話英語Ⅱ	1	後	1		4	4				教員の担当科目変更のため (22)	
		英語輪講Ⅰ	1	前	1		1	1					
		英語輪講Ⅱ	1	後	1		1	1					
		会話英語Ⅲ	2	前	1		1	1				少人数教育実施のため教員を追加 (22) 担当 五十嵐博久 (准教授)	
		会話英語Ⅳ	2	後	1								
		中国語Ⅰ	1・2・3・4	前	1								
		中国語Ⅱ	1・2・3・4	後	1								
		ハングルⅠ	1・2・3・4	前	1								
		ハングルⅡ	1・2・3・4	後	1								
		フランス語Ⅰ	1・2・3・4	前	1								
		フランス語Ⅱ	1・2・3・4	後	1								
		健康科学科目	スポーツと体育Ⅰ	1・2・3・4	前	1							
			スポーツと体育Ⅱ	1・2・3・4	後	1							
			スポーツと健康Ⅰ	1・2・3・4	前	1							
			スポーツと健康Ⅱ	1・2・3・4	後	1							

科目区分		授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専 攻 領 域	必修	基礎化学	1 前	2			1					担当教員の変更のため(22) 担当 根建 拓(准教授) 教員の身分昇格のため(22) 担当 道久則之(教授) 平成22年1月 教員審査済 判定 可
		基礎生物学	1 後	2				1				
		基礎生化学	1 後	2					1			
		生物学実験	2 前	3			2	1				
		生命工学実験Ⅰ	2 後	3			1 2	1	1			
		基礎遺伝子工学	2 前	2			1	+				
		生命工学実験Ⅱ	3 前	3			1	2				
		極限環境微生物学	3 前	2			1					
		分子細胞生物学	3 後	2				1				
		卒業研究	4 前	2			6	5	1			
		卒業論文	4 後	2			6	5	1			
		応用生物科学輪講Ⅰ	4 前	2			6	5	1			
	基礎科学	化学実験	1 前		2		1	1 2				教員の身分昇格のため(22) 担当 道久則之(教授) 平成22年1月 教員審査済 判定 可 教員の身分昇格のため(22) 担当 道久則之(教授) 平成22年1月 教員審査済 判定 可
		無機化学	1 後		2			1				
		微分積分学	1 前		2							
		解析学	1 後		2							
		生命工学概論	1 前		2		1	+				
		基礎化学工学	2 前		2		1					
		基礎生物物理化学	2 後		2		1					
		微生物生態学	2 後		2			1				
		微生物資源利用学	2 前		2		1					
		分析化学	2 後		2		1					
		生命科学特別講義Ⅰ	2 後		2							
		技術倫理	2 後		2							
		基礎有機化学	2 前		2		1					
		薬物生体作用学	2 前		2		1					
		天然物有機化学	3 前		2		1					
		酵素利用学	3 前		2		1					
		植物機能利用学	3 後		2		1					
		機器分析	3 後		2				1			
		生命科学特別講義Ⅱ	3 前		2							
		実務研修	3 後		2		1					
		知的財産所有権法	3 前		2							
		応用生物科学輪講Ⅱ	4 後		2		6	5	1			
		応用生物科学特別研究Ⅰ	4 前・後		2							
		応用生物科学特別研究Ⅱ	4 前・後		2							
	細胞利用コース	基礎細胞生物学	1 後		2			1				
		細胞生理学	2 前		2			1				
		細胞工学	2 後		2			1				
		植物育種学	2 前		2		1					
		タンパク質工学	3 前		2			1				
		植物バイオテクノロジー	3 後		2			1				
		植物生理学	3 後		2			1				
		代謝工学(システムバイオ)	3 前		2		1					
	生物利用コース	応用微生物学	1 後		2			1				教員の身分昇格のため(22) 担当 道久則之(教授) 平成22年1月 教員審査済 判定 可 教員の身分昇格のため(22) 担当 道久則之(教授) 平成22年1月 教員審査済 判定 可
		微生物利用学	2 前		2		1	+				
		極限酵素学	2 前		2		1	+				
		基礎生物化学工学	2 後		2			1				
		バイオマテリアル	2 前		2			1				
		バイオ情報科学	3 前		2		1					
		培養工学	3 後		2			1				
		バイオエネルギー	3 前		2		1					
	環境保全コース	環境微生物学	1 後		2				1			
		環境科学	2 前		2			1				
		地球環境情報学	2 後		2		1					
		水処理工学	2 前		2		1					
		エコシステム学	2 前		2		1					
		環境修復学	3 前		2		1					
		環境分析化学	3 後		2		1					
		微生物処理技術	3 後		2		1					

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専 攻 領 域	選 択 科 目	数理統計学	1	後	2						担当教員の変更のため (22) 担当 岡崎 渉 (教授) 担当 柏田祥策 (教授)
		物理 I	1	前	2						
		物理 II	1	後	2						
		地学 I	1	後	2						
		物理実験	1	後	2	2					
		基礎遺伝学	1	後	2						
		地球環境学	1	後	2						
		食育論	1	前	2						
		人体の構造と機能	1	前	2						
		線形数学	2	前	2						
		極限環境生命科学	2	前	2						
		地域産業論	2	前	2						
		地学概論 (実験を含む)	2	後	2						
		分子遺伝学	2	前	2						
		発生学	2	前	2						
		生物物理学	2	前	2						
		動物生理学	2	前	2						
		神経科学	2	後	2						
		生物統計学	2	前	2						教育効果を考慮し、開講学期を 前学期に変更 (22)
		宇宙科学	2	後	2	1					
		古生物学	2	前	2			1			
		食物栄養学	2	後	2						
		食品品質管理学	2	前	2						
		地学 II	2	前	2						
		微生物生理学	2	後	2						
		物理化学	2	後	2						
		バイオエレクトロニクス	3	後	2						
		生体高分子化学	3	後	2	1					
		安全・危機管理学	3	後	2						
		バイオナノ科学	3	後	2						
		香粧品化学	3	前	2	1					
		再生医科学	3	前	2						
		生物有機化学	3	前	2						
		核酸化学	3	後	2						
		脳科学	3	後	2						
		糖鎖生物学	3	前	2						
		タンパク質科学	3	後	2						
		機能食品科学	3	前	2						
		食品衛生学	3	前	2						
		分子進化学	3	後	2						
	教 育 語 科 特 目 別	Special Course in Advanced TOEFL I	1・2・3・4	後	4						学生の学習段階を考慮し、 平成21年度は休講 (21)。 平成22年度は開講
		Special Course in Advanced TOEFL II	1・2・3・4 未開講	前	4						
	日 本 語 科 目	Integrated Japanese I	1・2・3・4	後	5						
		Integrated Japanese II	1・2・3・4	前	5						
		Japanese Reading and Composition I	1・2・3・4	後	2						
		Japanese Reading and Composition II	1・2・3・4	前	2						
		Kanji Literacy I	1・2・3・4	後	1						
		Kanji Literacy II	1・2・3・4	前	1						
		Project Work I	1・2・3・4	後	1						
		Project Work II	1・2・3・4	前	1						
		Japanese Listening Comprehension I	1・2・3・4	後	1						
		Japanese Listening Comprehension II	1・2・3・4	前	1						
		Japanese Culture I	1・2・3・4	後	1						
		Japanese Culture II	1・2・3・4	前	1						

(注) ・届出書の様式第2号 (その2の1) に準じて作成してください。

- ・届出時の授業科目全て (兼任、兼任教員が担当する科目を含む。) を黒字で記載いただき、届出時より変更されているものは赤字で見え消し修正いただき、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
- ・「配当年次」について、届出時に開講時期を記載する必要がなかった学部等 (平成19年度届出以前) についても、届出時の状況を黒字で記載いただき、平成22年5月1日現在の状況を赤字で見え消し修正してください。

(2) 授業科目数

届 出 時 の 計 画				変 更 状 況				備 考
必 修	選 択	自 由	計	必 修	選 択	自 由	計	
14科目	144科目	0科目	158科目	14科目 [0]	144科目 [0]	0科目 [0]	158科目 [0]	

(注) ・未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する (資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。) とともに、[] 内に、届出時の計画
 からの増減を記入してください。 (科目例：1科目減の場合、-1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	なし					
2						
3						

- (注) ・届出時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については，記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	なし					
2						
3						

- (注) ・届出時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「届出時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{届出時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{}$$

- (注) ・小数点以下第3位を切り捨て，小数点第2位までを記入してください。

(1) 授業科目表

科目 区分		授業科目の名称	配 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
				必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
共 通 総 合 領 域	人 文	生命論	1・2・3・4	後	2		1					教育効果を考慮し、配当学期を前学期のみに変更（21）	
		生命倫理	1・2・3・4	前	2								
		生命哲学	1・2・3・4	後	2								
		心理学	1・2・3・4	前	2								
		言語と文化	1・2・3・4	前	2								
		人文地理学入門	1・2・3・4	前・後	2								
		文化人類学入門	1・2・3・4	後	2								
		哲学入門	1・2・3・4	前	2								
	社 会	食と文化	1・2・3・4	前・後	2							履修者増加に伴う対応のため配当学期を前・後期に変更（22） 担当 野島直人 教授着任（22） 教育効果を考慮し、配当学期を前学期のみに変更（21） 担当 野島直人は、平成22年度教授就任のため、平成21年度は非常勤講師として採用（21）	
		社会学入門	1・2・3・4	後	2								
		政治学入門	1・2・3・4	前	2								
		経済学入門	1・2・3・4	前・後 前 前・後	2		1 +						
		法学入門	1・2・3・4	前	2								
	自 然 情 報	日本国憲法	1・2・3・4	後	2							H21に少人数教育実施のため専任教員採用（22） 担当 藤澤誠（助教） 平成21年1月教員審査済 判定 可 H21に少人数教育実施のため専任教員採用（22） 担当 藤澤誠（助教） 平成21年1月教員審査済 判定 可	
		現代生物学	1・2・3・4	前	2								
		現代化学	1・2・3・4	前	2								
		現代物理	1・2・3・4	前	2		1						
		科学技術論	1・2・3・4	後	2								
		生命科学史	1・2・3・4	後	2								
		情報処理基礎	1・2・3・4	前	2		1						
	ライフサイエンス基礎Ⅰ	1・2・3・4	後	2		1							
		ライフサイエンス基礎Ⅱ	1・2・3・4	前	1					1			
		ライフサイエンス基礎Ⅱ	1・2・3・4	後	1								
	総 合	総合Ⅰ	1・2・3・4	前	2							教育効果を考慮し、配当学期を前学期に変更（22）	
		総合Ⅱ	1・2・3・4	後	2								
		キャリアデザイン	1・2・3・4	前 後	2								
		生 命 科 学 英 語	生命科学英語Ⅰ	2	後	2			5 4	2 + 2			少人数教育実施のため教員を追加（22） 教員の身分昇格のため（21） 担当 福森 文康（教授） 平成20年12月 教員審査済 判定 可
			生命科学英語Ⅱ	3	前	2		4	2				
会話英語Ⅰ			1	前	1								
会話英語Ⅱ			1	前	1								
英語輪講Ⅰ			1	前	1								
英語輪講Ⅱ			1	後	1								
会話英語Ⅲ			2	前	1								
会話英語Ⅳ			2	後	1								
中国語Ⅰ			1・2・3・4	前	1								
中国語Ⅱ			1・2・3・4	後	1								
ハングルⅠ			1・2・3・4	前	1								
ハングルⅡ			1・2・3・4	後	1								
フランス語Ⅰ			1・2・3・4	前	1								
フランス語Ⅱ			1・2・3・4	後	1								
健 康 科 学 科 目		スポーツと体育Ⅰ	1・2・3・4	前	1								
		スポーツと体育Ⅱ	1・2・3・4	後	1								
		スポーツと健康Ⅰ	1・2・3・4	前	1								
		スポーツと健康Ⅱ	1・2・3・4	後	1								

科目 区分	授業科目の名称	配 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	
専 攻 領 域	必修	基礎化学	1	前	2		1				聴講者数等から教育的効果を考慮し、担当教員を追加 (22) 聴講者数等から教育的効果を考慮し、担当教員を追加 (22) 教員の身分昇格のため (21) 担当 福森 文康 (教授) 平成20年12月 教員審査済 判定 可
		基礎生物学	1	前	2		1				
		フードサイエンス実験	2	後	3		2 +	1			
		生物学実験	2	前	3		3 +				
		基礎生化学	2	前	2		1	+			
		基礎栄養学	2	前	2		1				
		基礎微生物学	2	後	2			1			
		食品衛生学実験	3	前	3		2				
		食品安全学	3	後	2		1				
		食品技術者と倫理	3	前	2		1				
		食品微生物利用学	3	前	2			1			
		卒業研究	4	前	2		9	4			
		卒業論文	4	後	2		9	4			
		食環境科学輪講Ⅰ	4	前	2		9	4			
	基礎科学	フードサイエンスの化学	1	後	2		1				聴講者数等から教育的効果を考慮し、担当教員を追加 (22) 教員の身分昇格のため (21) 担当 福森 文康 (教授) 平成20年12月 教員審査済 判定 可 担当 堀江正一は、平成23年度教授就任のため、平成21年度は非常勤講師として採用 (22) 教員の身分昇格のため (21) 担当 福森 文康 (教授) 平成20年12月 教員審査済 判定 可 教員の身分昇格のため (21) 担当 福森 文康 (教授) 平成20年12月 教員審査済 判定 可 教員の身分昇格のため (21) 担当 福森 文康 (教授) 平成20年12月 教員審査済 判定 可
		フードサイエンスの生物学	1	後	2		1				
		化学実験	1	前	2		2 +	1 +			
		食物栄養学	2	後	2		1				
		食品加工貯蔵学	2	前	2			1			
		分析化学	2	前	2		+				
		機器分析	2	後	2			1			
		食品有機化学	2	前	2			1			
		分子生物学概論	2	前	2		1	+			
		植物バイオテクノロジー概論	2	後	2		1				
		食品バイオテクノロジー	2	前	2		1				
		生物統計学	2	後	2			1			
		食品科学特別講義	2	後	2		1				
		食品添加物概論	2	後	2		1				
		生命科学特別講義Ⅰ	2	後	2						
		生体高分子化学	3	後	2		1	+			
		生物資源利用学	3	前	2		1				
		応用酵素学	3	後	2		1	+			
		公衆衛生学	3	前	2						
		食品官能評価概論	3	前	2		1				
		フードスペシャリスト特別講義	3	前	2		1				
		知的財産所有権法	3	前	2						
		実務研修	3	後	2		1				
		生命科学特別講義Ⅱ	3	前	2						
		食環境科学輪講Ⅱ	4	後	2		9	4			
		食環境科学特別研究Ⅰ	4	前・後	2						
		食環境科学特別研究Ⅱ	4	前・後	2						
	専門科学	人体の構造と機能	1	前	2						
		食育論	1	前	2			1			
		フードコーディネート論	1	後	2			1			
		食品学概論	2	後	2		1				
		調理と美味しさの科学	2	前	2			1			
		予防・臨床栄養学	2	前	2		1				
		食品化学	2	後	2			1			
		フードエンジニアリング	2	前	2		1				
		食品物性論	2	前	2		1				
		食品品質管理学	2	前	2		1				
		プロバイオティクス	3	前	2		1				
		フードライフスタイル概論	3	後	2		1				
		調理学実習	3	前	2			1			
		ファイトセラピー論	3	後	2		1				
		フードデザイン学	3	後	2		1				
		食品衛生学	3	前	2		1				
		機能食品科学	3	前	2			1			
		HACCP論	3	後	2		1				

科目 区分		授業科目の名称	配 年 次	単位数			専任教員等の配置						備 考
				必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
専 攻 領 域	選 択 科 目	地学Ⅰ	1 後		2		1						
		物理Ⅰ	1 前		2		1						
		物理Ⅱ	1 後		2		1						
		物理実験	1 後		2		1	1					
		無機化学	1 後		2								
		基礎遺伝学	1 後		2								
		微分積分学	1 前		2								
		有機化学	1 後		2								
		地学Ⅱ	2 前		2		1						
		地学概論（実験を含む）	2 後		2								
		食品流通経済論	2 前・後		2		1						
		味とニオイの科学	2 前		2								
		ゲノム科学	2 前		2								
		動物生理学	2 前		2								
		微生物利用学	2 前		2								
		物理化学	2 後		2								
		微生物生理学	2 後		2								
		植物育種学	2 前		2								
		遺伝子工学	2 後		2								
		解析学	2 後		2								
		環境科学	2 前		2								
		スパイスの科学	3 前		2								
		ソムリエ講座	3 後		2								
		マーケティング入門	3 前・後		2		1						
		感染症学	3 後		2								
		タンパク質工学	3 前		2								
	環境分析化学	3 後		2									
	生物有機化学	3 前		2									
	バイオマス	3 後		2									
	バイオエネルギー	3 前		2									
	香粧品化学	3 前		2									
	植物生理学	3 後		2									
	微生物生態学	3 前		2									
	環境修復学	3 前		2									
英 育 語 科 目 別 教	Special Course in Advanced TOEFLⅠ	1・2・3・4 後		4								学生の学習段階を考慮し、平成21年度は 休講（21） H22は開講（22）	
	Special Course in Advanced TOEFLⅡ	1・2・3・4 前 ~~1+2+3+4~~		4									
日 本 語 科 目	Integrated JapaneseⅠ	1・2・3・4 後		5									
	Integrated JapaneseⅡ	1・2・3・4 前		5									
	Japanese Reading and CompositionⅠ	1・2・3・4 後		2									
	Japanese Reading and CompositionⅡ	1・2・3・4 前		2									
	Kanji LiteracyⅠ	1・2・3・4 後		1									
	Kanji LiteracyⅡ	1・2・3・4 前		1									
	Project WorkⅠ	1・2・3・4 後		1									
	Project WorkⅡ	1・2・3・4 前		1									
	Japanese Listening ComprehensionⅠ	1・2・3・4 後		1									
	Japanese Listening ComprehensionⅡ	1・2・3・4 前		1									
	Japanese CultureⅠ	1・2・3・4 後		1									
	Japanese CultureⅡ	1・2・3・4 前		1									

（注）・届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。

・届出時の授業科目全て（兼任、兼担教員が担当する科目を含む。）を黒字で記載いただき、届出時より変更されているものは赤字で見え消し修正いただき、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。

・「配当年次」について、届出時に開講時期を記載する必要がなかった学部等（平成19年度届出以前）についても、届出時の状況を黒字で記載いただき、平成22年5月1日現在の状況を赤字で見え消し修正してください。

（2）授業科目数

届 出 時 の 計 画				変 更 状 況				備 考
必 修	選 択	自 由	計	必 修	選 択	自 由	計	
16科目	135科目	0科目	151科目	16科目 [0]	135科目 [0]	0科目 [0]	151科目 [0]	

（注）・未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する（資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。）とともに、[] 内に、届出時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	なし					
2						
3						

- (注) ・届出時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については，記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	なし					
2						
3						

- (注) ・届出時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「届出時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{届出時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{}$$

- (注) ・小数点以下第3位を切り捨て，小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考				
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	平成21年3月新規購入 による増加（東京都板 橋区）（20）				
	校 舎 敷 地	293,613.51 m ²	0 m ²	0 m ²	293,613.51 m ²					
	運動場用地	496,383.73 m ² ~~475,677.24 m²~~	0 m ²	0 m ²	496,383.73 m ² ~~475,677.24 m²~~					
	小 計	789,997.24 m ² ~~769,290.75 m²~~	0 m ²	0 m ²	789,997.24 m ² ~~769,290.75 m²~~					
	そ の 他	0 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²					
	合 計	789,997.24 m ² ~~769,290.75 m²~~	0 m ²	0 m ²	789,997.24 m ² ~~769,290.75 m²~~					
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	川越7号館、板倉実験 棟（平成22年2・3月竣 工）による修正（22） 板倉実験棟新築、川越 7号館（平成22年3月竣 工）による増加（21） 誤記入による修正（20）					
	222,331.01 m ² ~~231,309.30 m²~~	0 m ²	0 m ²	222,331.01 m ² ~~231,309.30 m²~~						
	210,414.24 m ² (211,527.16 m ²)	0 m ²	0 m ²	210,414.24 m ² (211,527.16 m ²)						
	~~(200,714.24 m²)~~	(0 m ²)	(0 m ²)	~~(200,714.24 m²)~~						
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	283室	41室	521室	29室 (補助職員 0人)	5室 (補助職員 0人)					
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数		室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	生命科学部生命科学科 と共用		
	生命科学部 応用生物科学科 食環境科学科	57,695 [8,203] (55,695 [8,203])	176 [111] (171 [106])	31,990 [31,300] (31,990 [31,300])	3,106 (3,106)	2,966 (2,816)	2,966 (8)			
	計	57,695 [8,203] (55,695 [8,203])	176 [111] (171 [106])	31,990 [31,300] (31,990 [31,300])	3,106 (3,106)	2,966 (2,816)	2,966 (8)			
(6) 図 書 館	面 積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数					
	m ²									
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
	m ²									
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	予算額補正による修正 (21) 予算額補正による修正 (21) 予算額補正による修正 (21) (22) 予算額補正による修正 (21) (22)	
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等	(千円) 教授：730 准教授：675 講師：620	(千円) 教授：730 准教授：675 講師：620	図書 購入 費	応用生物 科学科	1,223 千円 0 千円	2,823 千円 2,457 千円		5,071 千円
					食環境科 学科	1,749 千円 0 千円	2,823 千円 2,457 千円	5,071 千円		
					応用生物 科学科	3,956 千円 0 千円	7,132 千円 7,631 千円 4,146 千円	8,555 千円		
	共同研究費等	55,000千円	55,000千円	設備 購入 費	食環境科 科学科	3,956 千円 0 千円	7,132 千円 7,631 千円 4,146 千円	8,555 千円		
	学生 1 人 当 り 納付金（生 命科学部）	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次			
		1,550 千円	1,300 千円	1,300 千円	1,300 千円	千円	千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、資産運用収入等ならびに国庫からの補助金収入によって維持を図る							

- (注) ・届出時の計画を設置届出書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。
- ・「(3) 教室等」「(5) 図書・設備」等について、届出時に数値を記載する必要がなかった学部等（平成20年度届出以前）については、届出時の数値の記載は不要ですが、平成22年5月1日現在の数値を赤字で記入してください。届出時に数値を記載した学部等（平成21年度届出以降）については、届出時の数値を黒字で記載いただき、平成22年5月1日現在の状況を赤字で見え消し修正してください。
- ・運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
- ・「(5) 図書・設備」については、上段に完成年度の予定の数値を、下段には平成22年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(22)」を「備考」に赤字で記入してください。
- なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。

4 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	東洋大学								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
文学部 第1部						1.23		東京都文京区	
哲学科	4	50	—	200	学士 (文学)	1.27	昭和24 年度	白山五丁目28番20号	
インド哲学科	4	50	—	200	学士 (文学)	1.23	昭和24 年度		
中国哲学文学科	4	40	—	160	学士 (文学)	1.28	昭和24 年度		
日本文学文化学科	4	190	—	760	学士 (文学)	1.23	平成12 年度		
英米文学科	4	120	—	480	学士 (文学)	1.26	昭和24 年度		
英語コミュニケーション学科	4	100	—	400	学士 (文学)	1.24	平成12 年度		
史学科	4	110	—	440	学士 (文学)	1.23	昭和24 年度		
教育学科						1.14	昭和39 年度		
人間発達専攻	4	60	—	180	学士 (教育学)	1.21	平成20 年度		平成20年4月から入学定員を 次のとおり変更 60→110 し、 学科内を専攻により区分し、 学位を学士(文学)から学士 (教育学)に変更
初等教育専攻	4	50	—	150	学士 (教育学)	1.00	平成20 年度		
経済学部 第1部						1.27			
経済学科	4	230	—	920	学士 (経済学)	1.27	昭和25 年度		
国際経済学科	4	175	—	700	学士 (経済学)	1.27	平成12 年度		
総合政策学科	4	170	—	680	学士 (経済学)	1.29	平成12 年度		H20年4月、社会経済システ ム学科から総合政策学科へ 名称変更
経営学部 第1部						1.26			
経営学科	4	310	—	1240	学士 (経営学)	1.27	昭和41 年度		
マーケティング学科	4	150	—	600	学士 (経営学)	1.29	昭和41 年度		
会計ファイナンス学科	4	210	—	840	学士 (経営学)	1.23	平成18 年度		
法学部 第1部						1.25			
法律学科	4	250	—	1000	学士 (法学)	1.24	昭和31 年度		
企業法学科	4	250	—	1000	学士 (法学)	1.26	昭和40 年度		
社会学部 第1部						1.27			
社会学科	4	110	—	440	学士 (社会学)	1.28	昭和34 年度		
社会文化システム学科	4	110	—	440	学士 (社会学)	1.28	平成12 年度		
メディアコミュニケーション学科	4	110	—	440	学士 (社会学)	1.23	平成12 年度		
社会心理学科	4	110	—	440	学士 (社会学)	1.27	平成12 年度		
社会福祉学科	4	110	—	440	学士 (社会学)	1.28	平成4 年度		

大 学 の 名 称	東洋大学							備 考		
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収容 定 員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地		
	年	人	年次 人	人		倍				
理工学部						1.27		埼玉県川越市大字 鯨井字中野台2100番地	H21年4月、工学部から理工 学部へ名称変更	
機械工学科	4	150	—	560	学士 (理工学)	1.26	昭和36 年度		H21年4月から入学定員を 次のとおり変更 130→150 し、学位を学士(工学)から学 士(理工学)に変更	
生体医工学科	4	100	—	200	学士 (理工学)	1.29	平成21 年度		H21年4月開設	
電気電子情報工学科	4	110	—	440	学士 (理工学)	1.26	昭和36 年度		H21年4月、電子情報工学科 から電気電子情報工学科へ 名称変更し、学位を学士(工 学)から学士(理工学)へ変 更	
応用化学科	4	120	—	500	学士 (理工学)	1.36	昭和36 年度		H21年4月から入学定員を 次のとおり変更 130→120 し、学位を学士(工学)から学 士(理工学)に変更	
都市環境デザイン学科	4	80	—	380	学士 (工学)	1.29	昭和37 年度		H21年4月、環境建設学科か ら都市環境デザイン学科へ 名称変更し、入学定員を次 のとおり変更 110→80	
建築学科	4	140	—	540	学士 (工学)	1.24	昭和37 年度		H21年4月から入学定員を 次のとおり変更 130→140	
工学部										
情報工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	昭和51 年度		平成21年度から学生募集停 止	
コンピュータショナル工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成13 年度		平成21年度から学生募集停 止	
機能ロボティクス学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成17 年度	平成21年度から学生募集停 止		
国際地域学部						1.26		東京都文京区 白山二丁目36番5号		
国際地域学科						1.25	平成9 年度			
国際地域専攻	4	180	—	180	学士 (国際地域学)	1.08	平成22 年度		平成22年4月から入学定員を 次のとおり変更 180→290 し、学科内を専攻により区分	
地域総合専攻	4	110	—	110	学士 (国際地域学)	0.93	平成22 年度			
国際観光学科	4	200	—	800	学士 (国際地域学)	1.29	平成13 年度			
生命科学部						1.29		群馬県邑楽郡板倉町 泉野一丁目1番1号		
生命科学科	4	100	—	400	学士 (生命科学)	1.29	平成9 年度			
応用生物科学科	4	100	—	200	学士 (生命科学)	1.24	平成21 年度		平成21年4月開設	
食環境科学科	4	100	—	200	学士 (生命科学)	1.25	平成21 年度		平成21年4月開設	
ライフデザイン学部						1.20		埼玉県朝霞市 大字岡字堂之下48-1		
生活支援学科						1.16	平成17 年度			平成21年4月から入学定員を 次のとおり変更 150→200 し、学科内を専攻により区分
生活支援学専攻	4	100	—	200	学士 (生活支援学)	1.25	平成21 年度			
子ども支援学専攻	4	100	—	200	学士 (生活支援学)	0.99	平成21 年度			
健康スポーツ学科	4	150	—	600	学士 (健康スポーツ学)	1.21	平成17 年度			
人間環境デザイン学科	4	150	—	600	学士 (人間環境デザイン 学)	1.24	平成18 年度			
総合情報学部						1.44		埼玉県川越市大字 鯨井字中野台2100番地		
総合情報学科	4	260	—	520	学士 (情報学)	1.44	平成21 年度		平成21年4月開設	

大 学 の 名 称	東洋大学								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
文学部 第2部						1.04		東京都文京区	
インド哲学科	4	30	—	150	学士 (文学)	0.99	昭和31 年度	白山五丁目28番20号	平成22年4月から入学定員を 次のとおり変更 40→30
日本文学文化学科	4	80	—	380	学士 (文学)	1.08	昭和27 年度		平成22年4月から入学定員を 次のとおり変更 100→80
教育学科	4	40	—	190	学士 (教育学)	1.02	昭和39 年度		平成20年4月から学位を学士 (文学)から学士(教育学)に 変更 平成22年4月から入学定員を 次のとおり変更 50→40
経済学部 第2部						1.05			
経済学科	4	150	—	630	学士 (経済学)	1.05	昭和32 年度		平成22年4月から入学定員を 次のとおり変更 160→150
経営学部 第2部						1.05			
経営学科	4	110	—	470	学士 (経営学)	1.05	昭和41 年度		平成22年4月から入学定員を 次のとおり変更 120→110
法学部 第2部						1.03			
法律学科	4	120	—	540	学士 (法学)	1.03	昭和31 年度		平成22年4月から入学定員を 次のとおり変更 140→120
社会学部 第2部						0.99			
社会学科	4	130	—	520	学士 (社会学)	1.03	昭和34 年度		
社会福祉学科	4	45	3年次 10	290	学士 (社会学)	0.94	平成13 年度		平成22年4月から入学定員を 次のとおり変更 75→45
通信教育部 文学部						0.20			
日本文学文化学科	4	1000	—	4000	学士 (文学)	0.20	昭和39 年度		
法学部						0.08			
法律学科	4	1000	—	4000	学士 (法学)	0.08	昭和41 年度		

(注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が、既に設置している全ての大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校の学科について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、平成22年5月1日現在の状況を記入してください。

(専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。)

- ・設置届出書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。
- ・「定員超過率」には、過去標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで(小数点第3位を切り捨て)を、学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)単位で記入してください。なお、学生募集停止を行った学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)の記載は不要です。
- ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「—」とし、「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画				
設置計画履行状況 調 査 時 (22年1月)	東洋大学文学部第1部哲学科，英米文学科，英米文学科，経済学部第1部経済学科，経営学部第1部マーケティング学科，社会学部第1部社会文化システム学科，社会福祉学科国際地域学部国際地域学科，生命科学部応用生物科学科の入学定員超過の是正に努めること。	東洋大学文学部第1部哲学科，英米文学科，経済学部第1部経済学科，経営学部第1部マーケティング学科，社会学部第1部社会文化システム学科，社会福祉学科国際地域学部国際地域学科，生命科学部応用生物科学科の入学定員超過の推移は下表のとおりであり、定員超過は是正されている。					
		文学部第1部哲学科					
			平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平均入学 定員超過率
		入学定員	50	50	50	50	1.27
		入学者数	68	61	75	50	
		入学定員 超過率	1.36	1.22	1.50	1.00	
		文学部第1部英米文学科					
			平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平均入学 定員超過率
		入学定員	120	120	120	120	1.26
		入学者数	161	166	151	129	
		入学定員 超過率	1.34	1.38	1.25	1.07	
		経済学部第1部経済学科					
			平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平均入学 定員超過率
		入学定員	230	230	230	230	1.27
		入学者数	293	353	295	230	
		入学定員 超過率	1.27	1.53	1.28	1.00	
		経営学部第1部マーケティング学科					
			平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平均入学 定員超過率
		入学定員	150	150	150	150	1.29
		入学者数	229	183	216	150	
		入学定員 超過率	1.52	1.22	1.44	1.00	
		社会学部第1部社会文化システム学科					
			平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平均入学 定員超過率
		入学定員	110	110	110	110	1.28
		入学者数	138	148	174	107	
		入学定員 超過率	1.25	1.34	1.58	0.97	
社会学部第1部社会福祉学科							
	平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平均入学 定員超過率		
入学定員	110	110	110	110	1.28		
入学者数	143	149	149	124			
入学定員 超過率	1.30	1.35	1.35	1.12			

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画						
		国際地域学部国際地域学科	理工学部応用化学科，総合情報学部総合情報学科の入学生受入の推移は下表のとおりである。 理工学部応用化学科						
				平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平均入学 定員超過率	
		入学定員		180	180	180	290	1.25	
		入学者数		253	250	222	298		
		入学定員 超過率		1.40	1.38	1.23	1.02		
		生命科学部応用生物科学科		理工学部応用化学科，総合情報学部総合情報学科とも，入学定員超過の是正に努めたが，平均入学定員超過率がそれぞれ1.36倍，1.44倍となった。次年度以降も引き続き定員超過の是正に努めたい。					
					平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平均入学 定員超過率
		入学定員			—	—	100	100	1.24
		入学者数			—	—	142	107	
		入学定員 超過率			—	—	1.42	1.07	
		総合情報学部総合情報学科			理工学部応用化学科，総合情報学部総合情報学科の入学生受入の推移は下表のとおりである。 総合情報学部総合情報学科				
						平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度
		入学定員	130			130	120	120	1.36
		入学者数	181			143	205	151	
		入学定員 超過率	1.39			1.10	1.70	1.25	
		総合情報学部総合情報学科	理工学部応用化学科，総合情報学部総合情報学科の入学生受入の推移は下表のとおりである。 総合情報学部総合情報学科						
						平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度
		入学定員		—		—	260	260	1.44
		入学者数		—		—	493	260	
		入学定員 超過率		—		—	1.89	1.00	

- (注) ・「設置計画履行状況調査時」には，当該設置計画履行状況調査の結果，付された留意事項
に対する履行状況等について，具体的に記入するとともに，その履行状況等を裏付ける資料を
添付してください。
- ・ 入学定員超過に係る留意事項への履行状況については，指摘を受けた学科等についてのみ記
入してください。
 - ・ 該当がない場合には，「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<生命科学部 応用生物科学科・食環境科学科>

(1) 設置計画変更事項等

届出時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
1. 生命科学部の学生が増えることにより学生実験室が、生命科学部の教員が増えることにより研究室実験室が不足する。このため、新棟を建設し研究室実験室を整備し、あわせて普通教室を一部改装し学生実験室を増設する予定である。 2. 情報の提供 生命科学部は何を学ぶ学部か、そもそも生命科学とはいかなる学問かということを広く世に周知するため、設置前にシンポジウムを開催する予定である。	生命科学部の教育研究活動の新拠点となる実験棟を平成21年度に着工し、予定通り平成22年3月に竣工した。 建築概要：地上3階 延べ床面積(6,806.88㎡) ・実験室 36室 (2,217.6 ㎡) ・コラボレーションスペース 18室 (688.5 ㎡) ・共通機器室(分析室) 3室 (162.76㎡) ・共通機器室(培養室) 3室 (117.86㎡) ・共通機器室(低温室) 1室 (37.95㎡) ・共通機器室(暗室) 1室 (42.06㎡) ・共通機器室(食品分析室) 1室 (42.21㎡) ・共通機器室(食品物性室) 1室 (37.95㎡) ・パントリー 3室 (73.44㎡) あわせて普通教室等の一部を学生実験室に改装するとともに調理実習室の改修工事を行っている。 設置直前の平成21年3月のシンポジウム開催に続き平成21年11月および平成22年3月に「東洋大学 生命科学部シンポジウム」を板倉キャンパスにて実施した。本学部教員による研究発表・講演や特別講演、全教員によるポスターセッションとサイエンスカフェ形式による座談などを通して、企業、公的研究機関を対象に、本学部紹介と教育研究における実績、最先端の科学技術の研究の成果、今後の展開などを発信した。また、平成22年3月には実験棟の竣工を記念し、見学会を含むシンポジウムを近隣住民、高校生を中心に開催した。このような取組は新聞記事等のメディアを通じ広く周知され、今後も継続していく予定である。

- (注) ・ 1～6の項目により記入した事項以外で、届出時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置届出書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

東洋大学では平成10年に「東洋大学自己点検・評価委員会」が設置され、その後、平成19年4月1日に大学院設置基準においてFD活動が義務化されたことにより、東洋大学FD委員会規程が制定され「東洋大学FD委員会」が設置された。

生命科学部では、平成19年に『学部教育目標を実現し、教育・研究の機能的充実を図り、本活動の妥当性、有効性について継続的に検証を行う活動』を行うため、学部内に東洋大学生命科学部FD委員会を設置した。この活動は、平成21年より設置された生命科学部の応用生物科学科、食環境科学科においても同様で、学部・学科が掲げる理念と教育目標を実現するため、カリキュラムや開講する授業の設計、実施、成績評価の適切性について、教員が職員と協働し、学生の参画も得ながら、組織的な検討と研修を推進する取組を進めている。

b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)

東洋大学FD委員会における、全学的な審議・協議・報告事項については、学部内FD委員会と、生命科学部教授会にて会議内容の報告と審議依頼などを行っている。学部内FD委員は各学科から推薦された教員1名と学部長・各学科主任の計7名で組織されている。

c 委員会の審議事項等

- (1) 委員会の年間計画の立案に関する事項
- (2) 授業技法(学習理論、授業方法、学業評価方法)の改善に関する事項
- (3) シラバスの改善に関する事項
- (4) 研究会、新任教員研修会への参加に関する事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 学部内自己点検・評価委員会が実施する授業評価アンケート結果を参考とした授業技法の改善
- ・ 新入生学力調査（入試方式と入学者学力）
- ・ F D活動状況報告会
- ・ 教員 F D研修会への教員派遣
- ・ F D研修報告会の実施

b 実施方法

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 学部内自己点検・評価委員会が実施する授業評価アンケート結果を参考とした授業技法の改善
学部内自己点検・評価委員会が実施した授業評価アンケート結果から、対象教員全員に結果に対する「授業改善レポート」を提出させ、自己の啓発に努めている。単なる学生への調査にとどめず、教員個人の授業技法改善に反映させている。
- ・ 新入生学力調査（入試方式と入学者学力）
入学後の授業内容、授業進捗の適切性に反映させるため、「生物」「化学」の科目について入学時に学力テストを実施している。基礎的内容を出題しているが、入学前の履修状況によって基礎学力に差がみられる。ライフサイエンス基礎Ⅰ、Ⅱの履修においてはこのテスト結果を基に習熟度別のクラス編成を行い、教育効果を高める工夫をしている。
- ・ F D活動状況報告会
平成21年12月19日開催された「F D活動状況報告会（学部）」に参加し、生命科学部におけるF D活動について報告を行った。テーマは「新入生基礎学力調査と学習支援プログラム」である。
- ・ 教員 F D研修会への教員派遣
教員の授業改善への意識向上と組織的な取り組みへの意義を理解し、他大学のF D活動状況を知るため、外部でのFD研修会に学部より教員を派遣している。平成21年度は2名を派遣した。
- ・ F D研修報告会の実施
学部の教員がF D活動に対して共通の知識、認識を持てるように、外部F D研修会に参加した教員が、他大学のF D活動を含めた研修内容について報告を行っている。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ 授業評価アンケートの結果を各教員に返還する際、その結果に対する「授業改善レポート」もあわせて各教員に課し、授業改善に向けての動機付けを行っている。また、全学の授業改善報告会においては成果の上がった取組について報告を行っている。
- ・ 自己点検・評価委員会を中心にして、授業評価アンケートの集計結果を分析し、授業の現状把握・改善に努めている。今後も教員の資質の向上に努める。
- ・ 新入生学力調査を基に一部科目を習熟度別クラス編成とし基礎学力の向上に努めるほか、各教員の講義内容に反映させることにより教育効果を上げる工夫を行っている。また、平成21年4月より学習支援室を設置し、助教による学習支援を行っている。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

別紙の通り

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成22年5月末 公表予定

b 公表方法

・大学ホームページ上に公表予定（平成22年5月末）

③ 認証評価を受ける計画

東洋大学は平成19年度に財団法人大学基準協会の認証評価を申請し、平成20年3月に「評価の結果、貴大学は本協会の大学基準に適合している」との認定を受けている。評価結果において「勧告」の項目はなかったが、「助言」として改善すべき項目の指摘がなされていたことから、平成23年度の改善報告書提出に向け、現在改善に向けた取り組みを展開中である。

従って現時点では次回の申請に関する具体的な決定事項はないが、制度的に第2サイクルとなる認証評価制度の今後のあり方、さらには中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」（平成20年12月24日）においても言及されている、いわゆる分野別評価の実施等の状況を留意しつつ、東洋大学の教育研究活動を広く社会に問う適切な時期を検討し、2回目の認証評価申請について計画する予定である。

なお、専門職大学院法務研究科法務専攻（法科大学院）については、平成20年度上期に財団法人日弁連法務研究財団の認証評価を受け、平成20年10月17日付で「財団法人日弁連法務研究財団が定める法科大学院評価基準に適合」と認定を受けている。

（注）・届出時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報提供に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 ・ 無)

b 公表予定時期

(2010年 5月 14日)

c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク

(承諾する ・ 承諾しない)

d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス

(<http://www.toyo.ac.jp/data/pdf/2010/report/seimei.pdf>)

（注）・「c」において「承諾する」場合、文部科学省のホームページにてリンク先を掲載しますので、大学等のトップページではなく直接リンクする先を「d」に記入してください。

なお、「d」のリンク先のアドレスが未定の場合は、決まり次第、文部科学省高等教育局大学設置室あてに、メールにてご報告ください。

※大学設置室メールアドレス：d-secchi@mext.go.jp

件名は「【調査係あて】AC報告書等HPリンク先（〇〇大学）」としてください。

(別紙) 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

生命科学部は、設置届出時の「設置の趣旨等を記載した書類」に記したとおり、生命科学分野の急速な発展と分野や内容の多様化に伴う専門分野の教育研究や人材の育成等の社会的要請に応えるべく、平成 21 年 4 月より既存の生命科学科に加え、地球社会における健康、環境及び食分野の発展と人材供給を目指して新たな 2 つの学科「応用生物科学科」「食環境科学科」を設置した。

開設から 2 年目となったが、計画通り 1・2 年次の授業科目を開講し、学習到達目標は達成できた。特にライフサイエンス基礎Ⅰ・Ⅱは必修ではないものの、履修指導の結果 1 年生の約 90%が履修し、平成 21 年度より入学時に実施する基礎学力テスト(化学、生物)結果を基に習熟度別クラス編成を行った結果、学習効果を上げることが出来た。平成 22 年度は更に効果を高めるべく、開講コースを増やし少人数教育を実施している。また、2 年時配当の「生命科学特別講義」においては、生命科学分野の先端で活動している職業人を招へいして講義を行うことで、キャリア形成支援の一端を担って行く。

教育・研究、特に人材育成に関しては、「設置の趣意・目的」で示した教育目標である「生命の総合的理解の上に立って、地球社会の発展に貢献する創造的思考能力、かつ倫理観を併せもった人材を育成する」ことについて、「生命倫理」(春学期)「生命論」「生命哲学」(秋学期)の開講により、生命の尊さ、生と死、医療や新技術の技術革新に伴う個人的・社会的な諸問題、哲学の観点から考えさせる力の涵養に努めた。また、自校教育の取り組みとして、上記で述べた「哲学」を通して、建学理念である「諸学の基礎は哲学にあり」にある基本的なものの見方・考え方の涵養にも寄与することを目指した。

平成 21 年度より「学習支援室」を開室し、入学後の学力への不安を持つ学生や・基礎力向上を希望する学生を対象に、助教をはじめとした専任教員による学習支援を行い、高等学校から大学の学習への円滑な移行に力をいれた。

また、人材育成の大きな柱として、各学科とも「知識と技術のさらなる高度化を図るため、大学院進学を積極的に推進する」ことを目標とし、専任教員による大学生活と将来の進路を考えさせる科目「キャリアデザイン」や、新入生対象の各種ガイダンス等で、大学院の紹介および大学院で学ぶ意義を説明し、1 年生から進学に対する意識付けを行った。

施設・設備等の整備計画において、2 学科の設置による学生増に伴う学生実験室不足と教員増による研究室・実験室不足に対応するため、新実験棟の建設と、既存教室の一部改装による学生実験室の増設を進めた。これにより、平成 22 年 3 月に新実験棟が竣工し、既存校舎の改修も一部終了し実験室および実験設備は充実したものとなった。

入学者選抜においては、3 学科体制となった生命科学部を理解してもらうために、オープンキャンパスや“学び”LIVE(授業体験)など、本学で実施しているイベントを通して教育研究の理念や内容などの情報を発信した。この結果、平成 22 年度入試においては、志願者数が大幅に増加し十分な効果を上げられたものと考え、引き続き取り組みを強化していく。

情報の提供として、本生命科学部と、生命科学の学問領域を広く周知するため、設置前の平成 21 年 3 月に続き、平成 21 年 11 月および平成 22 年 3 月にシンポジウムを開催し、地域企業、公的研究機関、近隣住民、在校生、入学予定者、高等学校の学生を対象に、研究発表、講演会、全教員によるサイエンスカフェ形式によるポスターセッションと座談会の実施、併せて平成 22 年 3 月のシンポジウムでは新実験棟を公開した。この、生命科学部シンポジウムは継続して開催し、本学部の目指す教育研究について情報発信を行っていく。

これらの状況から、生命科学部応用生物科学科・食環境科学科として、現段階(2 年目)での設置の趣旨・目的は概ね達成できていると判断している。今後とも設置の趣旨・目的の達成に向け、積極的に教育・研究活動を推進していくこととする。